

平成28年度地域志向研究助成金 研究の概要

尺八工房まつもと 主宰

松本 浩和

【 研 究 の 概 要 】

日蓮宗の宗祖・日蓮聖人が、現在の千葉県鴨川市の出身であることもあり、千葉県には日蓮宗寺院が多数存在している。千葉商科大学がある市川市にも、中山法華経寺や真間山弘法寺という大規模なお寺があり、地域にも親しまれている。宗教法人数から見て、他の自治体と比較しても、特に市川市には日蓮宗寺院が多いことから、単に一宗派としてだけではなく、有効な地域資源との捉え方も可能かと思われる。このように千葉県、また市川市とも縁が深い日蓮宗、更には千葉商科大学に隣接する真間山弘法寺を主なフィールドワークの対象として、仏教音楽を研究し、更にはお寺と地域のつながりについても考察の対象とした。

古今東西、宗教に音楽は欠かせず、仏教も同様である。宗派により様々であるが、共通して仏教音楽とも言える「声明」がある。日蓮宗では、声明はもとより法要全般に精通した僧侶に「声明師」の資格を与えている。その声明師に取材し、日蓮宗声明の概要や、仏具の扱い方等、日蓮宗声明の特徴を研究した。

仏具製作工房への取材を行い、仏教音楽の単に音楽面だけではなく、それを成り立たせている、日本の「ものづくり」への研究も行った。

本研究が一方的にならないよう、アンケートを実施し、一般的に仏教音楽がどのように捉えられ、また、お寺と人々がどのような関わりやニーズがあるかを調査した。

以上を踏まえ、一般にも案内する冊子を作成し、千葉県民、市川市民にとっても馴染み深い日蓮宗の新たな一面を提示するとともに、仏教音楽を一つのきっかけとした、地域とお寺との新しいつながりを提案した。

【 実 施 概 要 】

1. 弘法寺でのフィールドワーク

- ① 日蓮宗が定めた「声明師」（声明のみならず法要に精通した者に与えられる資格）である山田一成上人への取材（計6回）を通じて、日蓮宗声明の歴史的経緯や特徴、仏具の種別やその実演の記録、更に「声明師」の出来た経緯・背景やお寺での役割（法要のプログラミングや役割分担）、伝承システム（習得プログラム）等、普段あまり表には出ない実務的な事柄も記録した。また、現代においてお寺が抱える課題等についても対話した。
- ② 弘法寺で毎年行われ、お寺としても最も重要な法要の一つと位置付けられる「御会式法要」に参列し、映像を撮り記録した。

2. 法華経寺でのフィールドワーク

- ① 中山法華経寺の僧侶で「声明師」「修法師」でもある田中見定上人に取材し、山田上人とは

また違った角度から、声明や法要に関してお話を伺った。

3. 職人町・富山県高岡市でのフィールドワーク

- ① 仏具の鑿子（けいす）を製作している、全国でも数少ない工房である『シマタニ昇龍工房』を訪問し、仏具の作成や職人仕事の現状、今後の展望等について伺った。
- ② 全国でも有数の職人町である高岡は古い町並みも残っており散策を行った。また、鋳物工房で鋳物の製作体験も行った。

4. 国立劇場での声明調査

- ① 国立劇場は開場以来、毎年声明を公演として取り上げてきたが、平成28年度は開館50周年を迎える記念の年でもあり、声明を代表する「真言宗」「天台宗」の2公演が開催され、見学した。
- ② 国立劇場に設置されている「視聴室」には過去の主催公演が記録されており、声明公演を視聴した。

5. アンケート調査の実施

- ① 『仏教の音楽と、地域とお寺との繋がりに関するアンケート』と題し、アンケートを実施した（50回答）。
- ② 実施方法としてはクラウドソーシングを活用した。
- ③ アンケート結果から、仏教音楽の認知が低いこと、地域のお寺とつながりがあまり無い一方、ニーズとしては地域のお寺が求められている、「僧侶派遣サービス」に表れる新しいお寺・僧侶とのつながり方が受け入れられている、等を確認した。

6. 仏教音楽・声明を紹介する冊子の作成

- ① 今回研究したことを踏まえ、まだまだ一般的に認識されていない「仏教音楽・声明」を紹介する目的で冊子を作成した（A5版16頁、200部）。
- ② 制作にあたって、馴染みのないテーマに興味を持ってもらえるよう、僧侶と仏具からイメージされる女の子、2種のキャラクターを作成した。
- ③ キャラクターデザイン、DTPではクラウドソーシングを活用した。

以上